



2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年11月9日
上場取引所 東

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社

コード番号 2915 URL <https://www.kenkomayo.co.jp>

代表者（役職名） 代表取締役社長 （氏名） 炭井 孝志

問合せ先責任者（役職名） 常務執行役員 経営企画室 室長（氏名） 京極 敦 TEL 03-5318-7530

四半期報告書提出予定日 2018年11月13日 配当支払開始予定日 2018年12月3日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	37,409	1.0	1,456	△32.4	1,512	△30.8	903	△39.4
2018年3月期第2四半期	37,021	2.8	2,152	△13.1	2,184	△12.3	1,489	△11.9

（注）包括利益 2019年3月期第2四半期 1,074百万円（△37.0%） 2018年3月期第2四半期 1,704百万円（4.3%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	54.84	—
2018年3月期第2四半期	90.43	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	65,727	31,745	48.3
2018年3月期	64,837	30,984	47.8

（参考）自己資本 2019年3月期第2四半期 31,745百万円 2018年3月期 30,984百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	18.00	—	19.00	37.00
2019年3月期	—	15.00	—	—	—
2019年3月期（予想）	—	—	—	15.00	30.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	74,500	2.4	2,920	△30.0	3,000	△27.7	2,270	△21.1	137.78

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社、 除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期2Q	16,476,000株	2018年3月期	16,476,000株
② 期末自己株式数	2019年3月期2Q	493株	2018年3月期	441株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期2Q	16,475,514株	2018年3月期2Q	16,475,718株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法)

当社は、2018年11月20日（火）に機関投資家及びアナリスト向け説明会を開催する予定です。説明会内容につきましては、当日使用する四半期決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

(日付の表示方法の変更)

「2019年3月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2018年4月1日から2018年9月30日）におけるわが国の経済は、地震や台風等の自然災害が続いた影響などにより、訪日外国人客の増加ペースにやや鈍化傾向が見られましたが、国内景気については、失業率の低下により雇用・所得環境が良好であることや過去最高水準にある企業収益の好調さを背景に設備投資も堅調であることなど、緩やかながらも回復基調を持続しております。

このような事業環境の中、当社グループにおきましては、次の成長へ向けて当連結会計年度を初年度とする新しい中期経営計画『KENKO Value Action ～価値の創造～』を策定いたしました。この中期経営計画の基本方針は、「CSV経営（Creating Shared Value）～共通価値の創造～」とし、社会と企業の両方に価値を生み出す企業活動を実践していくため、次の5つのテーマを掲げております。

- (I) 地域貢献 ～地域貢献度No.1企業を目指して～
- (II) 環境・資源 ～資源・エネルギー利用の効率化～
- (III) サプライチェーン ～サプライチェーンの短縮と事業活動の改革～
- (IV) ソリューション ～「技術・サービス」の事業化～
- (V) 働き方 ～従業員満足度の向上～

以上の「CSV経営」における5つのテーマに基づいた3つの事業戦略は次のとおりであります。

- ①お客様と共にビジネスを創造・・・お客様の抱える課題に対して、当社の「商品・メニュー提案力」「情報発信力」等のノウハウを活かし、共に課題解決に取り組む
- ②“創り・応え・広げる”生産体制・・・お客様を支える安定した商品供給体制の構築
- ③サラダ料理を世界へ・・・サラダ料理を世界に向けて提案・拡販を目指す

この事業戦略の立案及び実践により、最終年度である3年後の数値目標は連結売上高850億円、連結経常利益46億円を掲げております。その目標達成に向けてグループ生産拠点の能力増強に取り組んでおります。連結子会社である株式会社ダイエットクック白老の新工場が2018年4月に稼働し、株式会社関東ダイエットクック神奈川工場が2018年6月に稼働しました。

当第2四半期連結累計期間における売上高及び利益の概況は以下のとおりであります。

(売上高)

売上高につきましては、サラダ・総菜類が減少したことや自然災害による影響がありました。株式会社ダイエットクック白老及び株式会社関東ダイエットクック神奈川工場の稼働により微増となりました。

(利益)

利益につきましては、新工場の立ち上げから軌道に乗せるまでの新工場関連費用に加えて、原材料価格の高騰や人件費上昇等の要因があり減益となりました。引き続き売上高増加に伴う工場の操業度効果をはじめとした原価低減や経費の削減等の利益改善を進めてまいります。

当第2四半期連結累計期間における連結売上高は37,409百万円（前年同四半期比387百万円の増加、1.0%増）、連結営業利益は1,456百万円（前年同四半期比696百万円の減少、32.4%減）、連結経常利益は1,512百万円（前年同四半期比671百万円の減少、30.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は903百万円（前年同四半期比586百万円の減少、39.4%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各報告セグメントの状況は以下のとおりであります。

(調味料・加工食品事業)

サラダ・総菜類につきましては、主力商品の1kg形態や小型形態のポテトサラダが減少し、外食チェーンをはじめとしたメニュー変更によりパンプキンサラダや明太子、コーン等を使用した商品が減少となりました。

タマゴ加工品につきましては、麺用の錦糸卵、オムライス用のスクランブルエッグがコンビニエンスストアを中心に増加しました。また、茹で卵は外食を中心に幅広く使用され増加しました。

マヨネーズ・ドレッシング類につきましては、10kg形態や1kg形態のマヨネーズは減少しましたが、ファストフード向けのソース等が伸長し、海外向けのドレッシングも増加しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は30,498百万円（前年同四半期比386百万円の減少、1.3%減）、セグメント利益は1,680百万円（前年同四半期比104百万円の減少、5.9%減）となりました。

(総菜関連事業等)

食品スーパー向けにシーフード（イカ、エビ、カニ、明太子他）を使用した商品や定番商品のポテトサラダが好調に推移しました。また、夏場商品の棒棒鶏サラダ等も売上高増加に寄与しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は6,310百万円（前年同四半期比809百万円の増加、14.7%増）、セグメント損失は193百万円（前年同四半期は378百万円のセグメント利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、65,727百万円（前連結会計年度比889百万円の増加、1.4%増）となりました。これは主に機械装置及び運搬具（純額）が2,294百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、33,982百万円（前連結会計年度比128百万円の増加、0.4%増）となりました。これは主に買掛金が682百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、31,745百万円（前連結会計年度比761百万円の増加、2.5%増）となりました。

(自己資本比率)

当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は、48.3%（前連結会計年度比0.5ポイント増）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、10,975百万円（前連結会計年度末比2,097百万円の減少）となりました。当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、2,191百万円（前年同四半期比1,013百万円の減少）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益1,551百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、4,189百万円（前年同四半期比34百万円の増加）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出4,175百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、99百万円（前年同四半期比1,710百万円の減少）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出593百万円、割賦取引による収入1,334百万円、割賦債務の返済による支出1,225百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年5月15日に公表いたしました連結業績予想及び配当予想を修正しております。詳細につきましては、本日（2018年11月9日）公表いたしました「2019年3月期第2四半期累計期間の業績予想数値と実績値との差異及び通期業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,072	10,975
受取手形及び売掛金	13,566	14,511
商品及び製品	1,866	1,636
仕掛品	10	13
原材料及び貯蔵品	1,100	1,089
その他	504	717
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	30,121	28,943
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,676	9,782
機械装置及び運搬具(純額)	5,904	8,198
土地	5,978	5,900
建設仮勘定	8,543	7,922
その他(純額)	363	476
有形固定資産合計	30,466	32,279
無形固定資産	219	239
投資その他の資産		
繰延税金資産	611	560
その他	3,455	3,741
貸倒引当金	△36	△36
投資その他の資産合計	4,030	4,265
固定資産合計	34,716	36,784
資産合計	64,837	65,727

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,940	10,622
電子記録債務	825	1,010
1年内返済予定の長期借入金	1,165	1,024
未払法人税等	866	743
その他の引当金	475	583
その他	8,034	6,517
流動負債合計	21,307	20,502
固定負債		
長期借入金	7,131	7,379
退職給付に係る負債	365	388
その他の引当金	989	996
その他	4,059	4,715
固定負債合計	12,546	13,480
負債合計	33,853	33,982
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,424	5,424
資本剰余金	5,691	5,691
利益剰余金	18,890	19,480
自己株式	△1	△1
株主資本合計	30,004	30,595
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,064	1,242
為替換算調整勘定	2	△21
退職給付に係る調整累計額	△87	△71
その他の包括利益累計額合計	979	1,150
純資産合計	30,984	31,745
負債純資産合計	64,837	65,727

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
売上高	37,021	37,409
売上原価	27,445	28,292
売上総利益	9,576	9,117
販売費及び一般管理費	7,423	7,660
営業利益	2,152	1,456
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	19	20
持分法による投資利益	—	6
その他	55	79
営業外収益合計	74	106
営業外費用		
支払利息	30	46
持分法による投資損失	7	—
その他	5	3
営業外費用合計	43	49
経常利益	2,184	1,512
特別利益		
補助金収入	8	63
その他	0	14
特別利益合計	8	77
特別損失		
固定資産除却損	5	1
災害による損失	—	15
減損損失	1	22
特別損失合計	7	38
税金等調整前四半期純利益	2,185	1,551
法人税等	696	647
四半期純利益	1,489	903
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,489	903

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	1,489	903
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	193	178
退職給付に係る調整額	28	16
持分法適用会社に対する持分相当額	△7	△23
その他の包括利益合計	214	171
四半期包括利益	1,704	1,074
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,704	1,074

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,185	1,551
減価償却費	923	974
引当金の増減額 (△は減少)	131	114
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	5	16
受取利息及び受取配当金	△19	△20
支払利息	30	46
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,978	△945
たな卸資産の増減額 (△は増加)	19	238
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,807	867
未払金の増減額 (△は減少)	566	129
その他	455	△52
小計	4,126	2,919
利息及び配当金の受取額	19	20
利息の支払額	△30	△46
法人税等の支払額	△911	△702
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,204	2,191
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,133	△4,175
無形固定資産の取得による支出	△9	△20
投資有価証券の取得による支出	△11	△11
投資有価証券の売却による収入	—	19
その他	△0	△1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,155	△4,189
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	2,053	700
長期借入金の返済による支出	△525	△593
配当金の支払額	△378	△312
割賦取引による収入	1,353	1,334
割賦債務の返済による支出	△890	△1,225
その他	△1	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,611	△99
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	660	△2,097
現金及び現金同等物の期首残高	13,779	13,072
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,440	10,975

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	30,885	5,501	36,386	635	37,021	—	37,021
セグメント間の 内部売上高又は振替高	317	4,433	4,750	—	4,750	△4,750	—
計	31,202	9,934	41,136	635	41,772	△4,750	37,021
セグメント利益又は損失 (△)	1,785	378	2,163	△19	2,143	40	2,184

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額40百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	30,498	6,310	36,809	599	37,409	—	37,409
セグメント間の 内部売上高又は振替高	316	4,488	4,805	—	4,805	△4,805	—
計	30,815	10,799	41,615	599	42,214	△4,805	37,409
セグメント利益又は損失 (△)	1,680	△193	1,487	△0	1,487	24	1,512

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額24百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。